

2016-17年度カリキュラム報告

—アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—

大 竹 弘 子

1 はじめに

横浜にあるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。本センターでは、40週間におよぶレギュラーコースと、7週間の夏期コース、3週間の漢文夏期集中コース、専門家・大学院生に対して個別指導を行うプロフェッショナルコースの、4種類の日本語プログラムを実施している。2016-17年度のレギュラーコース修了生は45名、それに続く2017年6月から8月の夏期コース修了生は38名、2017年6月から7月の漢文コース修了生は6名、プロフェッショナルコースは16名が受講した。（夏期コース報告（[リンク](#)）・漢文夏期集中コース報告（[リンク](#)）を参照）。以下に2016-17年度の、40週間のレギュラーコース実施内容を報告する。

2 レギュラーコースの概観

2016年9月5日から翌2017年6月9日までの40週間にわたってレギュラーコースを実施した。本コースは4つの学期からなり、9月開始から10月末の秋休みまでを第1学期、11月から12月の冬休みまでを第2学期、翌新年1月から3月の春休みまでを第3学期、そして春休み明け以降コース終了までを第4学期とし、1～2学期をまとめて前期と呼び、3～4学期を後期と呼んでいる（次頁表参照）。

2016-2017 年度 40 週間のレギュラーコース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業			
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑		
2	文法復習 Japanese Grammar Review	総合運用 I Applied Japanese Skills I			
3					
4			1学期		
5			9/5-10/28		
6			8週間		
7	待遇表現				
8	Formal Expressions		↓		
9	秋休み 1 週間 10 月 29 日(土)~11 月 6 日(日)				
10	接続表現	総合運用 II Applied Japanese Skills II	↑		
11	Conjunctive Expressions				
12	統合日本語 I IJ: Integrated Japanese Advanced Course I		2学期		
13			11/7-12/23		
14			7週間		
15					
16		↓			
17-19	冬休み 3 週間 12 月 24 日(土)~1 月 15 日(日)				
20	統合 日本語 II IJ II	選択 A Elective Course A	選択 B	総合運用 III Applied Japanese Skills III	↑
21					
22					3学期
23					1/16-3/10
24					8週間
25					
26					
27					個人面談
28-29	春休み 2 週間 3 月 11 日(土)~3 月 26 日(日)				
30	統合 日本語 III IJ III	選 択 A	選 択 B	プロジェクトワーク/ クラス授業/個別指導 Project Work/Class/ Directed Research	↑
31					
32					
33					4学期
34					3/27-6/9
35	GW 休み 1 週間 4 月 29 日(土)~5 月 7 日(日)				
36	統合 日本語 III IJ III	選択 A	B	プロジェクトワークなど	授業は実質
37					8週間
38					
39	試験5/29月、発表準備			試験5/29月、発表準備	
40	発表6/6-7火水、面談6/9金			発表6/6-7火水、面談6/9金	↓

午前と午後の授業には、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前は「文法復習」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語ⅠⅡⅢ」を必修科目とし、後期には選択必修科目「選択A」「選択B」を「統合日本語Ⅱ」「統合日本語Ⅲ」と並行して実施した。午後は「総合運用」が1学期から3学期まで続き、4学期の午後は「プロジェクトワーク／日本語N1・N2クラス／個別指導（うち1つを選択）」を行った。各学期の教育内容を以下に記す。

3 第1学期の教育内容

1学期から3学期を通し、午前の授業は月曜から金曜までの5日間50分授業を2コマ（途中10分間休憩）行い、昼食をはさみ午後は水曜を除く4日間100分間授業を1コマ行った。

3-1 文法復習

入学直後の1学期午前では、まず中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。本センター作成の『*An Introduction to Advanced Spoken Japanese*』（略称ASJ）『*Japanese Grammar*』（略称JG）のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使用した。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現」（動画スキット全4回）を導入した。午前21日間42コマをこの指導にあてた。

3-2 待遇表現

文法復習に続く午前の授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として本センター作成の『待遇表現』を用いた。この待遇表現の指導に午前9日間18コマをあてた。

3-3 総合運用Ⅰ

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて新聞やニュースを教材とする社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。午後18日間×100分をあてた。

4 第2学期の教育内容

4-1 接続表現

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。教材として本センター作成の『接続表現』を用いた。午前9日間18コマをこの指導にあてた。

4-2 統合日本語Ⅰ

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、本センター作成の『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻1～3課を第2学期に、下巻4～5課を第3学期に扱った（5-1節「統合日本語Ⅱ」参照）。月曜から金曜の午前23日間46コマを統合日本語Ⅰの指導にあてた。このうち12/21水の午前2時間をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅰ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

4-3 総合運用Ⅱ

一般的な社会問題をめぐる生教材、つまり読み物と関連ビデオ（例えば報道番組）などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用Ⅱでは、話題シラバスのモジュール型教材群「文化の発信」「ものづくり」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「現代の若者たち」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。午後21日間×100分を総合運用Ⅱの学習指導にあてた。

5 第3学期の教育内容

冬休みが明けた新年の1月から第3学期が始まる。3学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。必ず履修すべき授業時間数はコース前半と同じく、午前50分授業2コマ5日間、午後は水曜以外100分授業4日間変わらない。午前は、月曜に選択B、火曜と金曜に選択A、水曜と木曜に統合日本語Ⅱを配し、午後4日間（水曜以外）は総合運用Ⅲを実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択Cを設けた。

5-1 統合日本語Ⅱ

3学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」だけである。週2日、水曜と木曜の午前2コマずつ計4コマ「統合日本語Ⅱ」を実施した。3学期最終週の授業2日間(3/8水と3/9木)をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3学期の水曜と木曜の午前16日間32コマをあてた。

5-2 選択A

3～4学期の午前週2回(火曜と金曜)各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には3～4学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生がいるので、「選択Aコースお試しクラス」と称して2学期の午後1日(12/6火曜)を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」の6つで、火曜と金曜の午前に3学期16日32コマ、4学期に16日間32コマをあてた。

5-2-1 文化人類学

3学期は「言語とフィールドワーク」「ジェンダー」「グローバル化」「伝統文化と民族誌」をテーマに設定し、具体的な事象から抽象的課題に至る専門性の高い読み物を教材とした。4学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進め、校外学習も行った。

5-2-2 政治経済

3学期は日本の「政治・経済」に関する記事や文献が理解できるよう、政治学や経済学の一般向け入門書を教材とし、基本的な知識と語彙を充実させた。4学期は学生の希望に応じ、「AI」「PKO」「日米安保」「原発政策」「マーケティング」などの話題を取り上げた。また、3学期には国会・国際交流基金見学を実施し、4学期には学外講師を招き、「日本における起業」というテーマで講演を行った。また、フェリス女学院大学の学生と「地方再生」について話し合う機会を設けた。

5-2-3 美術史

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語や概念、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、議論した。「日本美術誕生」「明治の美術行政」「視線のポリティクス」「美術とジェンダー」「身近図像学」「ポスト・コロニアリズムの美術」「アヴァンギャルド」「冷戦ジャポニズム」「春画」「江戸絵画と朝鮮通信史」「ジョン・ケージと偶然性音楽」などのテーマを扱い、開始時と終了時には各自の

研究を紹介し、具体的な描写と抽象度の高い概念を織り交ぜ表現することに焦点を当てた。

5-2-4 文学

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、様々な観点から作品を分析し、話し合いを行った。おおむね2~3回で1作品を読んだ。4学期は明治期の作品を中心とするクラス、現代作品を中心とするクラスを設けた。

5-2-5 歴史

日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。3学期は学生の興味・関心・必要性に応じて、専門書および一次史料を素材とする読解練習を行った。4学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。また、横浜中央図書館及び国会図書館で、見学、資料検索の体験も行った。

5-2-6 法律

日本の法律全般、特に憲法、民法、刑法、国際法、知財法等について、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、日本大学法学部大学院のゼミ聴講、裁判所・検察庁見学等の活動を授業と結び付ける形で行った。

5-3 選択 B

選択 B では日本語力の増強あるいは周辺分野の指導のために「スピーキング I」「ビジネス日本語 I」「リスニング I」「リーディング」の4コースを開講した。月曜日の午前8日間16コマをあてた。

5-3-1 スピーキング I

大学院での演習場面を想定し、発話力伸張の訓練を行った。具体的には、発表者、司会者、参加者の役割を順次担当しつつ、専門的な分野で議論を深めるスキルの向上を目指した。発表者は要旨と論点を事前に準備し当日資料を配付した。

5-3-2 ビジネス日本語 I

就職活動を経て新社会人として働く場で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ねた。また、模擬就職面接やビジネスメールの課題提出を通して、事例に即した解説を加えながら実践指導をした(5-5-3節「ビジネス」参照)。

5-3-3 リスニング I

2分程度のニュースや情報番組の精聴練習を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを作成した。

5-3-4 リーディング

精読の練習として「日本人論」などに関する評論文を素材に用いて論旨の展開を読み取る訓練を積んだ。

5-4 総合運用Ⅲ

3学期の午後は「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」のうち1コースを選択する。どれも、読物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。午後25日間×100分を総合Ⅲの学習指導にあてた。

5-4-1 現代史

ムービーフィルムが残されている1900年前後からの日本の歴史を、「戦前の日本 1900-45」「敗戦と復興 1945-55」「高度成長 1955-70」「現代の日本 1970-95」の4期に分け、ビデオと読み物で概観した。また、1995年以降の現代日本について、各学生が興味を持ったテーマで発表を行った。

5-4-2 大衆文化

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「マンガと教育」「映画とオタク」「言葉と音楽」というテーマで資料を読み、話し合った。また、コース最後には、「これって文化」というテーマで学生各自が発表した。

5-4-3 ビジネス・社会

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」「大震災後」などの話題を取り上げた。

5-5 選択 C

3・4学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の3コースを開設した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

5-5-1 文語文法

文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、

コース半ばからは文語作品の読解も並行して行った。木曜 15 時 10 分～16 時 50 分に開講した。

5-5-2 漢文

日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜 13 時 20 分～15 時 00 分に開講した。

5-5-3 ビジネス

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し、今後の展望と課題について講義した。選択 B「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、神奈川経済同友会の湧井敏雄氏が指導に当たった（5-3-2 節を参照）。

6 第4学期の教育内容

プログラム最後の4学期の午前は、月曜の「選択 B」が4学期の独立したコースとなり、火曜と金曜に「選択 A」が、水曜と木曜に「統合日本語Ⅲ」が3学期から継続する。

また午後は1～3学期を通じて全学生が「総合運用」というクラス授業で学習を進めたが、4学期の午後は「日本語 N1 クラス」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択し学習を進めた。

6-1 統合日本語Ⅲ

4学期の水曜と木曜の2日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。標準的なクラスでは「対談・インタビュー」「評論」「論説」「論文」などの読み物素材を扱いながら、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。なお各クラスとも学生の到達度、興味、要望に応じて各種の教材を選択・補足しながら活発な授業運営を目指した。16日間32コマをあてた。また、全クラスを通じ、センター終了後の社会活動を円滑に行うための技能の一環として、改まった形の「礼状」を書く活動を行った。

6-2 選択 B

4学期の月曜日に「スピーキングⅡ」「リスニングⅡ」「ビジネス日本語Ⅱ」「ライティング」「日本文化論」「現代小説」の6コースを開講した。なお3学期と4学期の選

択 B はそれぞれ独立したものであるため、例えば、3 学期に「リスニング I」、4 学期に「リスニング II」を履修して聴解力を集中的に強化することもできるし、3 学期に「スピーキング I」、4 学期に「ライティング」を履修して総合力の増進を目指すこともできる。8 日間 16 コマをあてた。

6-2-1 スピーキング II

アカデミックな場面における会話力伸張の訓練を行った。具体的には、担当者が問題提起として要点をまとめて提示し、参加者は事前に配付された資料の内容を踏まえた上でその場で議論を組み立て、臨機応変に話題に対応しながら話し合いを進める練習を行った。翌週は前回の討論を踏まえつつ、全員での討論やディベートなどを行い、語彙や慣用表現の定着を促した。

6-2-2 リスニング II

2 分程度のニュースや情報番組の精聴を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを作成した。また、番組の一部を短く取り出して聞かせ、その部分を各自で書き取るディクテーション練習も行った。

6-2-3 ビジネス日本語 II

日本での就職を希望する学生を対象とし、市販の教科書を用いて、ビジネス場面における慣用表現を学習した。また、各自興味がある企業を一社選び、①その企業の紹介、②SWOT 分析（経営戦略を検討するための手法）、③問題点の指摘とその改善方法の提案、というテーマで発表、全体で議論をし、プレゼンテーションとディスカッションの技術習得を目指した。

6-2-4 ライティング

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

6-2-5 日本文化論

青木保著『日本文化論の変容』を素材とし、各学生が担当箇所を分担した。担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付し、本文内容の理解不十分な点を確認した。

6-2-6 現代小説

現代作家による短編小説を毎週、あるいは 2 週間で 1 作品ずつ取り上げた。授業では

予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、向田邦子、宮部みゆき、村上龍、綿谷りさ、筒井康隆、江戸川乱歩の短編を扱った。

6-3 4 学期午後

4 学期の午後は「日本語 N1・N2 クラス授業」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択して学習を進めた。

6-3-1 日本語 N1・N2 クラス

日本語能力試験 N1・N2 レベルの文型の習得を目指して、100 分のクラス授業を週 2 回、計 16 回行った。市販の問題集を使用して文型の知識増強を図り、語彙クイズ、復習クイズ、模擬試験を行った。

6-3-2 プロジェクトワーク

プロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週 50 分間個別の助言を受けながら、実地の調査研究や文献の読解などを行った。

以下に今年度のプロジェクトワークテーマ一覧を挙げる。

- ・綿矢りさ「インストール」村上龍「希望の国のエクソダス」に関する論評分析
- ・原子力産業と政府の関係
- ・『とはずがたり』の翻案作品分析
- ・博物館学・展示論・美術館における教育普及などに関する論文、評論を読む
- ・社会文化理論・概念中心教育
- ・スタートアップ企業の事業内容に関する説明資料作成
- ・和歌と遊戯をテーマに歴史、文学史、文化史に関する論文を読む
- ・東北学
- ・日系アメリカ人の歴史、移民排斥と日本人の反応・対応
- ・堀田善衛「方丈記私記」
- ・明治・大正時代の女性性や少女文化
- ・アニメ文化におけるアンチ・ヒーローの人物像と背景にある社会文化、社会環境の変化
- ・ラジオ史と草創期のラジオドラマ
- ・20～21 世紀女性作家作品分析、特に女性の立場における社会背景からの分析
- ・日本語学習者の学習のきっかけ・目標の調査
- ・日本語の契約書に頻出する文言とその法的意義
- ・アニメ『君の名は。』の中国における受容
- ・作家キム・サリヤンの短編小説分析
- ・戦後日本現代音楽。特に、日本におけるジョン・ケージの受容
- ・第二言語としての日本語学習における発音の問題

6-3-3 個別指導

クラス授業では対応できない、日本語に関する特定の需要を満たすためのコースである。学生が主体的に目標を設定し学習計画を立て、教員から個別の助言を受けながら各自が必要とする課題に取り組んだ。

7 通年で実施した学習指導と行事など

40週間にわたるプログラム期間中、教室における通常の授業に加えて、日本語の習得を促す数多くの機会を織り込んだ。以下にその代表的な活動を紹介する。

7-1 評価と個人面談

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業時に実力試験を実施した。内容は、読解と漢字の筆記試験、テープによる聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。

試験結果をもとに1学期のクラス（午前・午後各8組）を編成した。午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ40週にわたる学習の指針などを助言した。1学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会をその後も各学期末に設けた。2学期末と3学期末の面談はそれぞれ午前のクラス担任が行い、4学期末つまり卒業時は1学期と同じ教師が同じ学生と面談し年間を総括した。

クラスは学期ごとに午前・午後とも必要性を考慮した上で可能な限り編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気維持を図った。

7-2 漢字プログラム

常用漢字習得のための自律学習プログラムである。教材として本センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』『*Kanji in Context Work Book vol. 1・2*』の改訂新版（ジャパントイムズ社刊2013年）を用いる。これは漢字を単独ではなく、熟語や例文と共に学習できる内容構成となっている。学生は常用漢字すべてを卒業までに習得できるよう、毎日教材を独習し、授業以外の時間にクイズ156回を受けることとされている。さらに漢字学習を促すため、Webアプリケーション「[WebKIC](#)」が作成されており、学生は自分の進度に合わせて、漢字習熟度を確認することができる。また、これを利用して「KIC統一試験」を作成し、実施している。

統一試験は、漢字・漢語の読み方や意味などを書かせる問題50問を全学生が受け、点数が8割未満の場合は再試験を受けなければならない。今年度は、每学期1～2回、計7

回実施した。この統一試験により、漢字学習が習慣化し、クイズの修了率が以前に比べて向上した。漢字プログラムに関しては本年報所収の報告 ([リンク](#)) を参照されたい。

7-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を4回(12/12, 2/3, 3/2, 5/31)、全学生が参加する校外学習を2回(9/29, 12/2)開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。各種の催しは実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが学生に参加を呼びかけた催事を記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした課外活動「書道」「古筆」「茶道クラブ」を設けた。「書道」「古筆」のコースは書家の小林紘子氏が担当した。「書道」は年間を通じて月曜15時15分～16時45分を実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ、掛け軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない「くずし字」の読解練習を段階的に進めた。

「茶道クラブ」は初心者向けの裏千家学校茶道で、3・4学期に設けた。専任講師資格を有する本センター講師が担当した。真・行・草の礼に始まり、畳の歩き方、床の拝見の仕方、割り稽古と進み、点前の習得を目指す。また、茶席では、茶道に関連した軸、花、茶碗、歴史などについて説明した。

8 卒業発表

卒業発表会は10か月間にわたる学習を締めくくる催しである。全学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め1人15分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。今年度は全員個人発表であった。

4学期の午後の授業がプロジェクトワークあるいは個別指導の学生は、その時間内に卒業発表の準備を進めた。日本語N1クラスの学生はミニ発表会(2・3学期「統合日本語」)などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N1クラスの各学生には1人2時間分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

本センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。

http://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html

9 おわりに

本年度は学生数が45名とやや少なく、学生の状況に合わせて、柔軟にクラスサイズを決めることができ、また、Webアプリケーションを利用した「KIC統一試験」の実施によって、漢字学習が習慣化し、漢字学習への取り組みの強化を図ることができた。

レギュラーコース修了後、教員間では、日本語教育を取り巻く環境及び学習環境の変化、学生ニーズの変化、様々な学習補助ツールが開発されていることなどを踏まえ、センターの位置づけ、センターにおける教育目標を再検討し、カリキュラム見直しの取り組みが必要ではないかとの認識が共有された。意見集約には時間が必要だが、次年度以降検討を重ねていきたい。

(おおたけ ひろこ／本センター言語課程主任)

【資料】2016-17年度 通常授業以外の各種イベント一覧

2016年

- 9月 9日 (金) 横浜にぎわい座 民謡の会
 9月 11日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
 9月 12日 (月) 防災説明会 避難訓練
 9月 16日 (金) 入学歓迎親睦会
 9月 29日 (木) 校外学習 日米協会「アメリカ研究者の集い」、川崎大師、その他
- 10月 2日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
 10月 2日 (日) 流鏑馬 鶴岡八幡宮
 10月 7/8日 (金・土) ジャパンオルフェオ 鶴岡八幡宮
 10月 15日 (土) 第四回産学国際研修 国際シンポジウム
 10月 22日 (土) 国際シンポジウム日英連続講演会 明治神宮国際神道文化研究所
 10月 29日 (土) 横浜インターナショナルテニスコミュニティ テニススクール
 10月 29日 (土) 横浜かもんやま能
 10月 28日 (金) 横浜市立大学「浜大祭」学内ツアー
- 11月 6日 (日) 「現代の政治課題コンペティション」 日本地方政治学会主催
 11月 13日 (日) 横浜能楽堂 能・狂言
 11月 18日 (金) 明治大学 伊勢弘志助教主催 若手研究者ネットワーク説明会
 11月 26日 (土) 雅楽・神楽ワークショップ 鶴岡八幡宮
- 12月 5日 (月) 講演会 Ambassador Robert M. Orr 氏 “Obama and East Asia”
 Member of the Board of Directors, Council of American Ambassadors
- 12月 2日 (金) 校外学習 三溪園見学
 12月 6日 (火) 就職説明会 日経 HR 主催
 12月 12日 (月) 講演会「最初の日本人女性留学生 大山捨松」
 日米協会理事 久野明子氏
- 12月 14日 (水) 就職説明会 フォースバレーコンシェルジュ 渡辺理香氏
 12月 16日 (金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介&交流会
 12月 19日 (月) ACCJ 説明会 Governor Arthur Mitchell 氏
 Executive Director of the ACCJ Laura Younger 氏
 IUC 2016 卒 Alexandra Melillo 氏

2017年

- 1月 15日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 1月 21日 (土) 研究者ネットワーク講演会 明治大学 伊勢弘志助教
- 2月 3日 (金) 講演会 青梅市立美術館学芸員 田島奈都子氏
「プロパガンダポスター」
- 2月 3日 (金) 厳島神社(関内)「節分祭」
- 2月 10日 (金) 講演会 映画監督中村高寛氏 「映画製作者から見た日本の映画」
- 2月 14日 (火) 民謡ディナーショー
- 2月 15日 (水) 説明会 モントレーインスティテュート松尾直子先生
- 2月 17日 (金) 会社説明会 セプテニーホールディングス 人事部江崎修平氏
- 2月 21日 (火) 交流会 米国国務研修所 FSI
Gary G. Oba 氏 (Director), Michael Turner 氏, Darin Phaovisaid 氏
- 3月 2日 (木) 日本財団講演会 IUC 1977 卒 Timothy J. Vance 氏
「「連濁」に見る日本語の奥行き」
- 3月 12日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 4月 2日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 4月 13日 (木) 座談会 IUC 1997 卒 Carl Pizer 氏
- 4月 14日 (金) 「ゲーム翻訳」説明会 株式会社インピタス 同社長尾龍介氏
- 4月 14日 (金) 卒業生・在学生交流会
- 4月 18日 (火) 会社説明会 株式会社ラパン 坂本直樹氏
IUC 2014 卒 Lewis Christopher 氏
- 4月 20日 (木) くずし字講座説明会 シカゴ大学 荒武賢一郎先生
- 4月 21日 (金) 就職説明会 IUC 2003 卒 Richard Sleboda 氏
- 5月 3日 (水) ～6日 (土) KIP 知日派国際人育成プログラム主催
山口(萩)学生国際会議
- 5月 5日 (金) 鶴岡八幡宮「菖蒲祭・舞楽奉納」
- 5月 8日 (月) ～19日 (金) 日本大学大学院社会科学系(法律・政治・新聞)授業聴講
- 5月 18日 (木) 就職活動説明会 株式会社トモノカイ 留学生支援部門
Np Kandel 氏
- 5月 13日 (土) ～14日 (日) 国際交流活動 長野県中野市
- 5月 19日 (金) ～21日 (日) 下田市主催「黒船祭り」
- 5月 31日 (水) 日本財団講演会 IUC 1988 卒 Stephen Murphy-Shigematsu 氏
「スタンフォード大学におけるマインドフルネス教育」

- 6月 4日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 6月 6日 (火) ~7日 (水) 卒業発表会
- 6月 9日 (金) 卒業式、卒業祝賀会
- 6月 10日 (土) 鶴岡八幡宮「螢放生祭」
- 6月 16日 (金) 国立劇場 歌舞伎鑑賞教室